

第1回宮崎県自転車活用推進に係る検討委員会発言要旨

日 時：平成31年1月31日（木）13：00～14：30

場 所：宮崎県企業局庁舎1階 県電ホール

出席者：別紙「出席者名簿」のとおり

【主な意見】

- ・ 県外から人を引き込むためには、交通結節点などゲートウェイの整備や、各市町村をどう繋げるかが必要。また、サイクリング大会などのイベントをきっかけに、宮崎を走りたいと思ってもらうための取組も計画に入ってくるとよい。
- ・ 道の駅でサイクルステーション化を進めているところが増えている。サイクルステーションとして機能している道の駅の情報をネット上で公開するだけでも観光促進につながる可能性があると考ええる。
- ・ せっかく県がイニシアチブをとって進めるのであれば、隣県も含めたナショナルルート of 整備を目標にすることを検討してはいかがか。
- ・ 自転車に乗ることを目的に宮崎に来る人を増やす取組も重要だが、観光客として宮崎に来て、移動の手段として自転車を活用する人のために何ができるかということも必要。なかなか車では行けないような、ちょっとコアな観光地を巡る1つのツールとして自転車を勧めるための視点も考えてもらいたい。
- ・ 観光は宮崎県にとって非常に重要な取組である。計画の見せ方、アピールの仕方として、施策の一番目に観光を持ってきてはいかがか。
- ・ 運動公園にある自転車競技場は、資料に記載されている団体以外にも非常に多く利用されている。団体からは、競技場までのアクセスの良さが評価されている。

- ・自転車の左側走行徹底やヘルメット着用に加え、最近では高額賠償問題などがある。そういったことを小学校・中学校から正しく伝える方法が必要。サイクルツーリズムを推進する上では、交通ルールの徹底が大切である。
- ・移動手段の一つとして、宮崎ではカーフェリーが強みである。神戸から往復しても15,000円くらいで日帰りでき、持ち込み代もかからない。
- ・JR日南線・吉都線は九州管内でワースト3位と2位であるが、この2線が廃線になったときの宮崎県のダメージは大きい。サイクルトレインやサイクルカーフェリーをもっと活用し、公共交通と自転車を連携して、更に観光客を増やしていく工夫づくりが今後の宮崎には非常に大事。
- ・アンケートでは、取り組むべき事項として「自転車通行空間の整備」や「学校における交通安全教育の推進」の割合が大きい一方で、「災害時における自転車活用の推進」の割合が小さい。実際に災害時に自転車が役に立つのかという意味も込められていると思うが、宮崎市の計画には自転車で避難するシステムの検討も記載されているところであり、今後、社会実験や大学での研究で検証したい。
- ・宮崎市では国道や県道も含めたネットワーク計画に基づき自転車通行空間の整備を進めているが、すべてのネットワークを繋げていくにはかなりの時間と予算がかかる。国・県とも連携して整備を進めていきたい。
- ・青島太平洋マラソンのように、高千穂通りや橘通りの一部を競技ルートの一部にするようなイベントを検討してはいかがか。